

抗血栓薬の内服と透析回路内残血の関連について

医療法人社団 櫻会 小平北口クリニック* 東久留米クリニック**

○佐藤裕一* (サトヒロカズ) 両部真吾** 寺西 優* 内田弘美* 菊池愛子* 佐藤直幸* 小沢 尚*

目的

心臓血管病変の増加に伴い透析患者の抗血栓薬内服が増えてきている。経口抗血栓薬内服者と透析回路内残血の関連について検討した。

方法

当院の維持透析患者の経口抗血栓薬内服者で残血有り 3 例・無し 18 例、内服無しで残血有り 5 例・無し 4 例に分類し、血液凝固指標を測定した。検査項目は PF-4・ β -TG・PT・APTT の 4 項目を透析の前後で採血を行い、残血のある症例に対し回路内の抗凝固剤の増量と透析前での抗血栓薬内服による血液凝固指標の変化を調べた。

結果

ダイアライザに残血がある症例は、透析後で血小板関連因子の値が増加しており、回路内の抗凝固剤の増量より抗血栓薬使用の方が効果的であった。

考察・結語

ダイアライザに残血がある症例では、回路内抗凝固剤を増量しても血小板凝集を抑制することが出来ていなかったため、抗血栓薬内服の方が効果的と思われた。この点を十分考慮し、回路内抗凝固剤量も検討する必要があると思われた。